

令和5年度 美作市立勝田中学校 学校評価書

※APとは、学校経営計画書に基づき前年度の反省を踏まえて、本年度に特に重点的に取り組みたい事柄を示したもので、『知』：学力（学習面）『徳』心（生活面）に分かれる。
各アンケートの肯定的な割合を％表示しています。【評価基準】 A：目標を上回った（80％以上） B：ほぼ目標通り C:目標を下回った（50％以下）

学校教育目標		夢を拓き、確かな学びと豊かな心、たくましく生き抜く力を育む ～学びをひろく 心をひろく 未来をひろく～		R5年度重点目標（目指す生徒像） 「知」ユニバーサルデザイン化された授業により、「きける・（説明）できる・つながる」を実現できる生徒の育成 「徳」お互いに認め合い、支え合い、高め合い、つながることの出来る生徒の育成				
指導の重点	達成指標	具体的な取組	具体的評価の観点	分析・検証(中間期)	次学期に向けての改善点	職員評価	学校評議員会の意見	総合評価
A P （知） に関する項目	「ペア・グループ学習により、新たな考えを発見したり、自分の考えを深めたり広げることができる。」の肯定回答割合を増やす。（生徒アンケート）＊「きける・（説明）できる」	目標に応じた交流場面を設定し、意図的に交流させる。（短時間でも毎時間）	【研究主任・学力向上担当】・考えを深めたり広げることができるかの視点による相互参観週間を設定する。（1・2学期）・ペア・グループ学習の実践事例の交流を行う。（夏休み） 【研究主任・授業改革推進員】授業改革推進員の模擬授業を全教員で参観し、授業交流する。（1学期の相互参観週間） 【教務主任】生徒アンケートにより達成指標の現況値を確認する。「①グループ学習（ペア学習）」を取り入れた授業を行ったか」を教職員アンケートで確認する。（1・2学期末） 【管理職・授業改革推進員】全教職員の授業を参観し指導助言する。（学期に1回以上）	・相互参観週間を6/5～1/6に実施し、参観シートを元に教員間で交流した。 ・【教員】①肯定的回答（91％）、よく当てはまる（36％） ・ペア、グループ学習の事例の交流を夏休みに行い、2学期からのより効果的な実践につなげた。	・生徒が目的を持って話し合いに向かい、より質の高い話し合い活動になるように工夫する。 ・話し手・聞き手のポイントを示す掲示物を作成し、明示することで、より質の高い交流ができるようにする。	A	○学力向上のために、グループ学習やICT活用が、有効に働いている。より質の高い学習活動ができることを期待する。 ○ペア・グループ学習は、よい結果が出ている。徳の部分にもつながっていく。 ○「めあて」があることで達成感も得られる。	A
	76％（R4）		【生徒】ペア・グループ学習の実施	肯定的回答（98％）、よく当てはまる（67％）			○生徒アンケートより、ほとんどの教科でわかる授業ができていように評価できる。しかし、少数だが理解できていない生徒にも目を向けてほしい。 ○2学期では、授業内容が複雑になるためか、授業評価が下がっている部分がある。保護者の評価も厳しくなっている。	
	67％（R4）	「自分の考えを説明することができ、クラスで学習内容を深めたり広げたりすることにつながっている。」の肯定回答割合を増やす。（生徒アンケート）＊「つながる」	発問時に、一問一答で終わらずに、必ず、考えを「広げる・深める」問い返しや共通で使えるように問い返しをし、生徒の考えをつなげたり、深める。	【研究主任・学力向上担当】考えを深めたり広げるような発問ができていのかの視点による相互参観週間を設定する。（1・2学期） 【教務主任】生徒アンケートにより達成指標の現況値を確認する。「②一問一答でなく、問い返し発問ができていのか」を教職員アンケートで確認する。（1・2学期末） 【管理職・授業改革推進員】全教職員の授業を参観し指導助言する。（学期に1回以上）	・相互参観シートをAP取組につながる内容を作成し使用で焦点化が図れた。 ・【教員】②肯定的回答（54％）、よく当てはまる（9％）生徒アンケートでは、肯定的な回答は90％を上回っているが、A（よく当てはまる）の回答については50％未満である。	・問い返し発問の質を上げるために、相互参観週間で視点を持って授業を参観する。 ・実践している問い返し発問の共有ができるようにする。	B	
	76％（R4）	「各授業で『めあて』を達成するために、意欲的に活動して授業に取り組むことができる。」の肯定回答割合を増やす。（生徒アンケート）＊「できる(主体的に学ぶ)」	視覚化・焦点化・共有化の視点を取り入れた授業を展開を行う。	肯定的回答（93％）、よく当てはまる（49％）	・生徒が目的を持って活動できるように、視覚化・焦点化・共有化の視点を更に伸ばしていけるよう、ICT研修で学んだことを実践する。	A	○新しい取組（ICT、UD化、Chromebook等）について、充分な理解と活用をしていてもらいたい。 ○ICT関係の設備の充実も進めてもらいたい。	
A P （徳） に関する項目	「相手の気持ちを考えて、声をかけたり、自分の思いを伝えることができる」の肯定回答割合を増やす。（生徒アンケート）	学級の実態に合わせてSSE（ソーシャルスキルエディケーション）を学期に2回実施する。	【学活・総合担当】行事に合わせてSSEの実施内容を提案する。（行事ごと） 【学活担当】各学級でのSSEの実施状況（実施日・内容）を確認する。（学期ごと） 【教育相談担当】SCによるSSEの授業を企画・実施する（年間各学年1回） 【研究主任】各学級でのSSE実践事例の交流する研修を行う。（4・8月） 【教務主任】生徒アンケートにより達成指標の現況値を確認する。（1・2学期末）	・SSEの実施状況は、1年4回、2年4回、3年2回であった。その他、学校生活を通して生徒の実態が分かってきた学年もある。 ・4月には昨年度の取組内容を、8月には1学期の取組内容の交流をした。 ・8、9月にSCによる授業を実行した。	・学年の実態に応じた手立てとして、アセスメントシートの利用を行う（1年）。 ・継続したSSE（ソーシャルスキルエディケーション：人とのつきあい方）授業の実施を行う。	A	○いろいろな行事を通して、お互いに意見を出し合い活動し達成感を得たことは、人生のなかで生きてくると思う。 ○日々の学習や色々な活動経験より、目標である「豊かな心を培う」や「生きる力」に近づいていけるのではないだろうか。 ○多様性を認めて人と関わるのは難しいが、生徒達は柔軟な対応ができています。 ○個を認めながら、集団をまとめるのは大変である。 ○SSEや人権教育で学んだことを、実際の生活のなかで活かしていける力や場面も大切である。	A
	69％（R4）		【生徒】思いを伝えることができる。	肯定的回答（93％）、よく当てはまる（51％）	・クラス発表会の創作発表の内容を、総合的な学習の時間の内容と関連づけている。創作発表の取組を通して、重点取組を強化する。	B		
	76％（R4）	「互いの違いを認め、協力して活動することができる」の肯定回答割合を増やす。（生徒アンケート）	総合的な時間の学習を通して、身の回りの課題に気づかせ、周りと協力しながら問題解決の実現に向けて取り組ませる。	・人権教育年間計画に沿った活動を実施した。夏休みに全校でアイマスク体験を行い、視覚障害者との交流を通して理解を深めることができた。 ・SSEの授業取組事例について、教員間でお互いに情報交換を行った。	・クラス発表会のスピーチで、クラスの中で互いの頑張りたたえ合う場面を作っていく。	A		
	71％（R4）	「困難なことにも向き合い、周りの人とも協力しながら粘り強く解決へ向けて努力できる。」の肯定回答割合を増やす。（生徒アンケート）	生徒会や生徒実行委員会等が、企画・運営する行事の取組によって、生徒の意識を向上させる。	・大きな行事前には、目標を設定させ、振り返りをさせている。 ・運動会終了後に、学年を越えて感謝のメッセージを交換した。生徒同士がお互いの良いところを伝え合う機会となり、肯定的な回答につながったと考える。 ・3年ぶりに地域の祭りに生徒会が参加し、日頃取り組んでいる資源物回収について地域へアピールした。	・帰りの会のスピーチで、クラスや友達の良いところを継続して発表している。 ・行事の反省の中で、個人をたたえる場面を作り、通信で交流した。			
かつたっ子15の春プロジェクトの推進	具体的な取組		具体的評価の観点	分析・検証(中間期)	次学期等に向けての改善点	分析・検証（年度末）	学校評議員会の意見	総合評価
	異校種間の連携推進と地域と協働的な活動の推進（CS実施に向けての活動）	①異校種間の連携授業回数等		小学5、6年英語の授業（6回）実施。小学5合同人権講演会（オンライン）の実施。2小学校との合同クリオン活動等の連携ができた。	・次年度は人権講演会の参集実施。 ・2小合同陸上記録会を中学校専科の保体教員の指導で行う。	小学5、6年英語の授業（年15回）実施。『学びの集会』『座談会』では、小学生と直接交流する場になった。ひまわり園との保育実習での交流などの連携ができた。	○保幼小中の連携が、一層強まることを期待する。 ○中学校区の園や校と連携して長期間一貫性のある教育をすることが、地域に根差した教育につながる。	A
		②連携だより等での学校の様子を伝えることに関する活動		連携だよりを保幼小中で発行。ホームページにも掲載。異校種間の連携の様子を地域にも伝えることができた。学校の様子をケーブルテレビでも紹介して頂き地域にも学校の様子を伝えることができた。	・今後も保幼小の連携の無理のない連携をすすめていき、生徒の良い面をしっかりと褒めてやることで自己肯定感を高める。	連携だよりを年間3回発行。異校種間の連携の様子を地域にも伝えることができた。『夢講座』を実施。学校の様子をケーブルテレビでも紹介して頂き地域にも学校の様子を伝えた。	○生徒数の減少によりいろいろな活動が制限されるが、保幼小中が連携できるとよい。 ○このような活動ができる地域性を活かしての取組は、良い事だと思う。これからも続けて、つながりを深めてほしい。成果は、無限だと思う。	
		【学校評価アンケート】 ⑩中学校区の校・園が連携して異校種間のつながりを意識した一貫性のある教育を行っている。		かつたっ子15の春プロジェクトの各部会（経営部会・運営部会・学び部会・育ち部会・養護部会・英語部会）で学期に1回以上は部会を行い、合同研修会を開催し、連携事項の共有と確認ができた。	・スムーズに引継ぎ継続的な活動・部会間でも情報共有が密に行われるようにする。	つながりを意識した教育の実施の肯定率10.0％。第2回合同研修会で、中学校がSSE（人とのつきあい方・表現の仕方）の取組を目標に道徳授業を公開し、小中学校でスキルアップの為の研修をすることができた。	A	
		○地域との交流活動について ①【全国学調11、県学調9】人の役に立つ人間になりたいと思う。 ②【全国学調30】地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか。 ③【全国学調29】今住んでいる地域の行事に参加しましたか。		<全国・県学調より中間期の肯定率> ①1年88.9％（当てはまる77.8％） 2年10.0％（当てはまる91.7％） 3年58.8％（当てはまる35.3％） ②58.8％（当てはまる35.5％） ③64.7％（当てはまる41.2％）	・1年の総合的な学習の時間では地域の魅力について考え、動画を作成しクラス発表会での発表ができた。今後は来年度から導入予定のCS（コミュニティ・スクール）に向けて勝田中学校の取組を進めていく。	<校内アンケートより肯定率> ①1年10.0％（当てはまる50％） 2年22％（当てはまる73％） 3年10.0％（当てはまる78％） ②1年10.0％（当てはまる60％） 2年91％（当てはまる64％） 3年94％（当てはまる61％） ③1年10.0％（当てはまる80％） 2年64％（当てはまる64％） 3年72％（当てはまる44％）	B	